

ラスボスの思想(55)

国防

春日信彦



目次

国防

明治維新と言えば、日本の夜明けのように言われるが、現実の史実はどうであったのであろうか。江戸幕府が崩壊し、新政府が樹立したわけだが、この新政府は、日本国民のための政府だったのだろうか。教科書では、日本政府とイギリスの関係について深く習うことがない。戦力で劣っていた日本が、日露戦争で勝利できたのは、同盟国イギリスの支援によるものだったと言っても過言ではないように思われます。日清、日露、第一次、と連勝を重ねた戦争を考えると、日本が欧米にどのように利用されてきたかが分かる。

戦後、米軍基地が日本に置かれたことでもわかるように、欧米にとって、日本は、共產主義国ロシアに対しての東アジアにおける防衛拠点となっている。日本が日清、日露、第一次まで勝利を収めたのは、欧米の東アジアにおける戦略だったと言える。ところが、欧米戦力に関する情報収集が不十分であったこと、また戦勝が続いたこともあり、日本軍部は、日本の軍事力を過大評価してしまった。そのこともあり、アジア諸国の独立を目指すという大義名分を掲げ、大東亜戦争に突入してしまった。

第二次においては、日本の軍事力とアジア諸国への影響力を恐れた欧米は、日本を完全に敗北に追い込み、軍事力を保持できない植民地にする戦略をとった。つまり、その戦争で日本は完敗したものの、天皇の存続は許され、新憲法が制定された。しかしながら、実質的な政治は、帰化人を首相とする自民党政権を通じて、米軍によって管理されることとなった。おそらく、今後も、米軍の管理下に置かれるであろうが、現在は、中共の影響が強まっているため、米軍と中共の力関係によっては、日本は、中共の管理下に置かれる可能性がある。そのことに危機感を抱く参政党、並びに幾人かの知識人、インフルエンサーたちは、中共による日本侵略の実態を街宣するようになった。

現在のところ、現政権与党である自民党、公明党の力は大きく、すぐに政権交代がなされることはないと思われますが、自公政策に対する不満が増大し、反政府国民運動が拡大していくならば、新保守政党が政権与党である自公にとって代わる可能性もあり得るでしょう。今後の展望を予測するのは難しいですが、現与党が増税と移民を促進していくようであれば、新保守党による政権交代が、近い将来起こりうるのではないのでしょうか。やはり、日本の将来を決めるのは、若者たちの政治参加にかかっているといえます。特に、Z世代の投票率の上昇によっては、政権交代が現実味を帯びてくると言っても過言ではないでしょう。

現在、政治への関心は高まっています。それは、良い意味ではなく、悪政に対する不満の高まりです。すでに、パンデミック条約反対デモ、財務省解体デモ、自民党解体デモ、等が行われました。ワクチン接種後遺症の多発、増税、景気の悪化、中小企業の倒産、可処分所得の低下、米価格の高騰、治安の悪化、環境破壊、これらによって多くの国民は、苦境に立たされています。これらの原因として、消費税、インボイス制度、社会保険料の増加、海外への無償融資、太陽光発電ソーラーパネルの広大な設置、外国人への生活保護支給、治療費の国民保険支払いの外国人適用、外国人の不法滞在、外国人留学生への無償奨学金支給、などの政策が考えられます。

今後、このような政策が推進されていくならば、中小企業倒産、農家の廃業失業者の増加、就職難の激化、貧困化促進、治安の悪化、などが考えられます。これらの災難をもっともこうむるのは、将来の若者たちです。彼らが、今後の日本政治経済について真剣に考え、さらに政治にかかわっていかねば、生きていくことさえ困難な時代に突入することになるでしょう。現在、選挙の投票率は、50 %を切っているのが現状です。しかも、20 代、30 代の投票率は、30 %程度と言われています。ということは、日本の将来は、彼らの投票率で大きく変わっていくということです。果たして、若き大和民族は、日本を守ることができるのでしょうか。

一休川柳

家畜米 大臣売れば 古飼ヒカリ

ゲームする 高学歴の ホームレス

敗戦で 独立できたか 日本国

令和にて 人権捨てたか 家畜米

医者にして 医者を戒め 名を遺す

家畜米 ホームレスの 炊き出しか

配給制 いつまで続く 家畜米

原住民 家畜米で 飢えしのぐ

ラスボスの思想(55)

著 者 春日信彦

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
